



L-INSIGHT

世界視力を備えた
次世代トップ研究者育成プログラム

様々な視点を広く世界に向けることで広がる
可能性・未来を表しています。
複数の円は、世界に羽ばたく研究者たちや、
視野の爆発的な広がりをイメージしています。

L-INSIGHT
LEADING INSTITUTE | KYOTO UNIVERSITY

世界視力を備えた
次世代トップ研究者育成プログラム

Program for the Development of Next-generation
Leading Scientists with Global Insight (L-INSIGHT)

文部科学省「世界で活躍できる研究者戦略育成事業」

代表機関



京都大学

パートナー機関(順不同)



大阪大学
OSAKA UNIVERSITY



神戸大学



OIST



三井化学



よろこびがたく世界へ
KIRIN



THE UNIVERSITY OF
MELBOURNE



SHIMADZU

お問い合わせ

京都大学 学際融合教育研究推進センター
次世代研究創成ユニット(E-NER)
〒606-8501 京都市左京区吉田本町
京都大学 吉田キャンパス 学術研究支援棟1階

TEL: 075-753-5916
E-MAIL: office-l-insight@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp
<https://www.l-insight.kyoto-u.ac.jp/>

L-INSIGHT

得るインサイト

「世界視力を備えた次世代トップ研究者育成プログラム」
(通称 L-INSIGHT) は、世界を見据え、
未来を切り開く世界視力を備えた、次世代トップ研究者を育成する
プログラムを開発、実証、普及することを目的とした事業です

OUR AIMS

目指す人財像

2030年代に一級の研究者と成り得る
世界視力を備えた人財

国際的に最先端の研究を牽引できる人財
境界域あるいは新領域研究を開拓できる人財
産業界に新機軸をもたらし得るイノベティブな人財

「世界視力」とは

時間、地理、学問分野、セクター、文化圏などの
境域を越えて見渡し、見抜き、見通す力

“トップ研究者”を目指したいという若手研究者に、 少しでも多くの思考の時間と機会を与え、 成長に向けて大きな推進力になるプログラム

「世界視力を備えた次世代トップ研究者育成プログラム」(通称L-INSIGHT)は、2019年11月に文部科学省による令和元年度科学技術人材育成費補助事業の「世界で活躍できる研究者戦略育成事業」の採択を受け事業を開始し、学際融合教育研究推進センター次世代研究創成ユニットに若手研究者戦略育成拠点を設置しました。

[世界視力が必要な]
領域① 価値創造

L-INSIGHTフェロー

準テラーメイド式

L-INSIGHTフェローが目指す研究者像と目標に応じ、受講プログラムや経験機会を自由に選択

基幹プログラム群 実践プログラム群

メンターや異分野の次世代コミュニティとの対話やワークショップを通じた世界視力(マインドセット・スキルセット)の理解あるいは醸成

L-INSIGHTフェロー自身の研究テーマでの国際連携や産業界との連携のスタートアップを後押しする豊富な世界視力の活用と研鑽

両プログラム群により獲得する世界視力の分類
(SELF / INTERPERSONAL / SYSTEM) × (マインドセット / スキルセット)

SELF

INTERPERSONAL

SYSTEM(GLOBAL/SOCIETY)

経済的支援

国際会議主催費、国内・海外渡航費、国際誌論文掲載・オープンアクセス費等の支援など受講を促進する活動促進支援

多様な実践空間での 研鑽を積み続ける機会を提供

L-INSIGHTフェローの優れた独創性、高い専門性という縦軸に、国際性、学際性、産業界の多数の視点という横軸を交差

国際連携型アプローチ

産学連携型アプローチ

若手研究者コミュニティ発展計画

京都大学内の研究者育成の取組との相乗効果によるコミュニティ形成から、大学研究機関や企業などパートナー機関所属の若手研究者間交流へと拡大、さらには全国のプログラム受講者へ展開

対話を通じた自己評価

名誉教授メンター、受講支援メンターとの対話を通じ、設定目標と目標達成に向けた活動を明確化

[世界視力が必要な]
領域② 内外調整

研究室・部局

L-INSIGHTフェローが所属する研究室・部局の研究者などの要望や考察をフィードする仕組みと相互の意見交換

学術や産業、 セクターの跨境

研究者ライフデザイン、企業研究者合同リトリート、企業での現場体験等

L-INSIGHTフェロー

[世界視力が必要な]
領域③ 社会変革

国内外
アドバイザーボード
プログラム開発、人材育成、科学技術政策等の有識者による、事業運営やプログラム開発に関する助言

研究者育成に関する
調査・分析を含む
事業運営を通じた
プログラム開発

FUTURE
2030~

若手研究者戦略育成拠点

基幹プログラム群

実践プログラム群

学術分野の跨境

研究者コミュニティ合宿、スーパーサイエンティストとの対話等

文化圏の跨境

国際会議コンピーナー経験、国際連携スタートアップ実践、国内外のフィールドを起点とした交流・研究活動等

時間を超えて

学術分野、文化圏、セクターなどを跨境する経験を通じ、未だ見ぬ未来を標榜する「世界視力」の源泉を獲得

受講期間にルールは設けていないが、3年前後での目標達成を想定

若手研究者
コミュニティへの
機会提供を通じた
プログラム開発

概ね
3年前後

学術や産業の 世界的プレゼンスを向上

- ・「世界視力」を備えた人財の輩出
- ・学術分野、文化圏、セクターを超えた研究者コミュニティの拡大と研究活動の活性化により、豊かな文化の発展と未来社会の持続性に貢献

将来にわたって若手研究者が 活躍し続ける研究環境の実現

- ・L-INSIGHTフェロー終了者が若手研究者コミュニティの交流機会へ継続的に参加し、メンター的な存在となる場を提供
- ・日本の社会・文化に根ざした人材育成と、そのための環境設定を提案

L-INSIGHTについて

創成の背景と期待

「世界視力を備えた次世代トップ研究者育成プログラム」(通称L-INSIGHT)を策定した背景として、若手研究者が世界トップクラス研究者となるために重要な分野・地理・産学を越えた研鑽経験が得にくいばかりでなく、一時的な異分野・異文化交流を経ても、その経験が学際的な融合研究、境界領域や新領域の研究になかなか結実しない、という現状があげられます。

本事業の目的は、**2030年代に世界一級の研究者**と成り得る、世界視力を備えた次世代トップ研究者を育成するためのプログラムを開発及び実施し、改善を経て、**日本社会・文化に根ざしたプログラム**として総合化・体系化し、普及してゆくことです。本事業が定義する世界視力とは、時間、地理、学問分野、セクター、文化圏などの境域を越えて見渡し、見抜き、見通す力としています。グローバル化がいつそう進展し、学術・産業界における国際競争が激化・変化するなか、日本の学術研究が、将来にわたり社会に負託された役割・使命を持続的に果たし、国際的な地位を向上するためには、世界視力を備えた次世代研究を牽引する世界トップクラスの若手研究者の育成が必須と考えています。L-INSIGHTが支援する若手研究者たちの活躍が学術や産業のプレゼンスを高めるとともに、豊かな文化の発展、未来社会の持続性へとつながるものとなることを期待しています。

L-INSIGHTの開発

国際的な人財育成の経験が豊富な教育研究者及び部局が連携し運営するL-INSIGHTは、これまでの若手研究者育成の国内外の事例を調査し、京都大学の取組みを応用するとともに、組織的に国際的かつ産学の枠を越えたL-INSIGHTの開発にあたります。コアとなる若手研究者(以下、「L-INSIGHTフェロー」という。)には、パートナー機関(学外の教育・研究機関、企業から成る)及び海外連携機関等に所属する**研究者等との交流機会を提供**しつつ、**フェロー自らが目標を明確化する支援**を行い、目標達成のために各々が必要としているマインドセットとスキルセットから成る「世界視力コンピテンシー」の理解・獲得・強化に働きかけます。

L-INSIGHTは従来のスキルアップを中心とした若手研究者の育成方法にとらわれず、新たな研究者育成・支援を実施します。すなわち、若手研究者の競争力及び優位性の源泉となる優れた**世界視力コンピテンシー**として重要な、チャレンジ精神、協創性、未来志向等のマインドセットの醸成・活性化に取り組めます。並行してプロジェクト実務力、成果発信力等のスキルセットの育成・強化も行います。

受講年数はルール化していませんが、概ね3年前後で各フェローが目標を達成できることを想定しています。世界視力コンピテンシーの3つの領域にまたがる**マインドセット・スキルセットの習得に関する達成度をフェロー自らが評価**するにあたり、**基幹プログラム群と実践プログラム群**の受講等の活動記録を残し、**名誉教授メンター・受講支援メンターとの対話**も通じて改善を試み、能力向上と成長に繋げることが期待できます。なお、L-INSIGHTフェローの個性を活かし、研究活動の長期的な目標設定を促すため、実践プログラム群では**〈国際連携型〉**及び**〈産学連携型〉**の2つのアプローチを併用します。どちらか一方に注力するか、両方を目指すかは、L-INSIGHTフェロー自らが選択します。

なお、L-INSIGHTの受講終了者には、若手研究者が交流する機会に継続的に参加し、**若手研究者コミュニティ**の構成員であり続けていただきたいと考えています。さらに、受講中のL-INSIGHTフェローに対して助言する**メンター的な存在となる終了者**が、数多く現れることを期待しています。

世界視力の領域と構成要素

世界視力は次世代トップ研究者にとり重要な3つの領域で発揮される、**マインドセット**(特性、意志、意識)と**スキルセット**(技能)です。マインドセット・スキルセットをSelf / Interpersonal / System (Global / Society)の3つの性質に分類し、事業内共通のツールとして活用します。

3つの領域

新しい価値を生むための領域 ① 価値創造

研究者として新しい価値を創造する、メカニズムを解明する、新たな知見を得るために重要な思考や力の領域

生まれた価値を育てるための領域 ② 内外調整

創造した価値を発展させる、解明したメカニズムを応用する、得た知見を広めるにあたって生じがちな、自己と他者間のコンフリクトの調整や解決等に欠かせない思考や力を扱う領域

育てた価値を社会・世界に広げていくための領域 ③ 社会変革

研究成果を社会に適用し、広げ、深めるために必要な思考や力の領域

3つの性質

SELF: Mindsets and Skill Sets

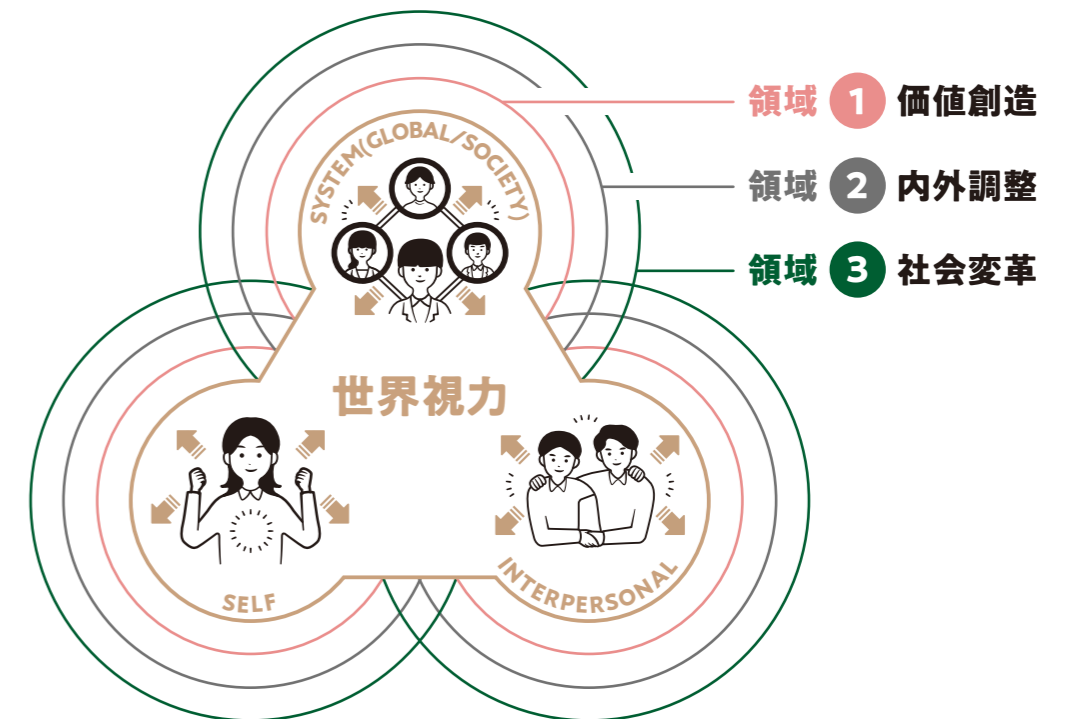
自身のマインドの醸成・活性化および、スキルの育成と強化に取組む

INTERPERSONAL: Mindsets and Skill Sets

1対1または小さなグループ内での人と人の繋がりための向上に取組む

SYSTEM (GLOBAL / SOCIETY): Mindsets and Skill Sets

自身が得た心構え・心の持ち方と科学専門力・研究遂行力をより大きな集団や複雑な社会においてシステムとして効果的に発揮できるように取組む



ごあいさつ

京都大学 総長 湊 長博



世界の社会や産業構造などが大きく変化しつつある現在、我が国が科学技術立国として持続的な発展を続けていくためには、科学技術・イノベーションの推進は不可欠であり、とりわけ少子高齢化が急速に進行している我が国では、その将来の担い手である卓越した研究者を継続的に育成・輩出していくことが、研究大学の極めて重要な課題になっていると思います。

このような背景の下、令和元年度から文部科学省によって、世界のトップクラスの研究者として活躍できる人材の育成に向けたプログラムの開発や組織的な研究者育成システムの構築を通じて、大学における優れた研究者の戦略的な育成推進を支援するための、「世界で活躍できる研究者戦略育成事業」が開始されました。

本学ではこれまで、文部科学省の「科学技術人材育成のコンソーシアムの構築事業」において、「京阪神次世代グローバル研究リーダー育成コンソーシアム(K-CONNEX)」を構築し、次代を担う優秀な若手研究者の戦略的な確保・育成を行ってまいりましたが、その実績と経験を基に、令和元年度新たに「世界視力を備えた次世代トップ研究者育成プログラム(L-INSIGHT)」を提案し、採択されました。これにより、採択後10年間に亘って、国内外の教育・研究機関、企業等の各連携機関と協力の下、若手研究者の人材育成プログラムを精力的に開発・実証・普及していくことになりました。

大学における若手教員・研究者の減少傾向は、我が国の大学における将来の研究力の維持と強化において、極めて懸念すべき問題であることは、かねてより国でも指摘されているところです。京都大学でもこれを深刻に受け止め、若手教員重点配置などの施策を進めてきているところです。加えて特に重要なのは、大学における若手教員や研究者の研究環境をいかに充実させていくかという観点です。これには、物理的研究環境整備のみならず、独立した研究者として世界に立ち向かうPrincipal Investigator(PI)としての素養を積むための環境作りと支援も極めて重要になるでしょう。

京都大学では本事業を通じて、文部科学省、国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)やその他の関係機関と連携しつつ、我が国の研究者育成プログラムの開発・普及に貢献し、次代を担う優秀な若手研究者の育成に資するため最大限の努力をしていく所存です。

京都大学 理事・副学長 時任 宣博



近年、若手研究者の置かれている状況・環境は大変厳しく、基盤的経費の減少、雇用の不安定化、研究以外の業務の増加等により、大学独自の若手研究者育成事業による研究環境の形成をもってしても、その育成環境は十分とは言い難い現状にあります。そのような中、京都大学では文部科学省の科学技術人材育成費補助事業「世界で活躍できる研究者戦略育成事業」採択の「世界視力を備えた次世代トップ研究者育成プログラム(L-INSIGHT)」を通じ、研究者の個性を伸ばしながら国際連携・産学連携に長けた優秀な若手人材を育成しようという取り組みが進展しつつあるということを実感しております。

我が国における次世代の研究者、真のリーダーを育成するためには、世界レベルの力量を持ち、かつ志の高い若手研究者が気軽にアクセスできるネットワークやプラットフォームを提供し、積極的な交流と相互理解の増進を図ることができる本事業のような取り組みがますます必要不可欠であると考えます。また、国内外の優れた研究者が分野の違いを超えて、世代の近い人的ネットワークを早めに持つことは、その人間的な視野を広げるとともに、専門学術分野それぞれにおいても将来の活躍の基礎となるものと確信しております。

今後とも文部科学省、国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)、関連機関の皆さま方のご支援、ご協力をいただきながら、本事業が我が国の若手研究者育成に資することを祈念いたしております。

次世代研究創成ユニット長/プログラムマネージャー 赤松 明彦



「世界視力を備えた次世代トップ研究者育成プログラム」(L-INSIGHT)事業を運営し、日々プログラムを開発・実施する教員やURA等から成る「若手研究者戦略育成拠点」を次世代研究創成ユニットに設置しました。若手研究者が次世代の世界トップクラス研究者を目指すにあたり、世界を見据え、未来を切り開く「世界視力」の獲得が重要であると考え、このプログラムの名称であるL-INSIGHTには、「得るインサイト」という意味も込めました。また、本学が代表機関を務めた京阪神次世代グローバル研究リーダー育成コンソーシアム(K-CONNEX)の志を共有し、Kに続くアルファベットであるLで始まるプログラム名として、さらに高度なプログラムを開発、実証、普及する決意を表現しました。L-INSIGHTの使命は、若手研究者が国際連携あるいは産学連携を経験しながら次世代トップ研究者を目指す歩みを大きく加速させることです。分野・地理・産学を越えた研鑽経験を積む機会を数多く創出し、若手研究者が自らの目標地点に到達するために必要なスキルセット及びマインドセットに磨きをかける時間と空間を提供します。戦略的に若手研究者育成に取り組むために、産官学の有識者による助言に加えて、若手研究者の意見を活かしたプログラム作りを重視して事業を展開してまいります。

7つの特徴

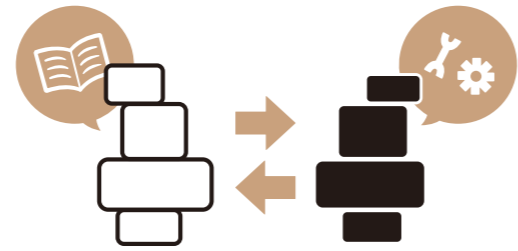
L-INSIGHT(得るインサイト)の特徴

L-INSIGHTは、世界を見据え、未来を切り開く世界視力を備えた、次世代トップ研究者を育成するプログラムを開発、実証、普及することを目的とした事業です。優れた独創性、高度な専門性が認められる研究成果をあげ、次世代研究を担う研究者としての矜持を保ち、国際的なPrincipal Investigator (PI)となることを目標とする、志の高い優秀な若手研究者をL-INSIGHTフェローとして受け入れます。



4 対話を通じたプログラムの共創

L-INSIGHTは若手研究者の視点と学内外の有識者の助言を取り入れて開発・改善し、共創してゆくプログラムです。たとえば「世界視力コンピテンシー」の設定には、若手研究者及び学内外の有識者の意見を積極的に取り入れます。またフェローの企画提案の採用など「対話を通じたプログラムの共創」を推進していきます。



1 基盤形成と実践の相互作用

L-INSIGHTフェローによる世界視力の獲得・強化を支援するため、基幹ステージ及び実践ステージから成る「基盤形成と実践の相互作用」を意図したプログラムを構築していきます。基幹ステージを経て実践ステージに進んだ後、さらなるコンピテンシーの理解を深めたいと希望する場合には、基幹ステージのプログラム群を再受講することができる等の柔軟性を保持しています。



5 国際機関との柔軟な連携

京都大学の海外拠点*及び海外連携機関等の協力を得て、共同研究の創成に向けた海外の若手研究者及びトップ人材と交流する機会、国際会議のコンピナーとしての経験を積む機会を提供します。

* ASEAN(タイ・バンコク)、欧州(ドイツ・ハイデルベルグ)、北米(ワシントンD.C.)



2 準テラーメイド式

L-INSIGHTフェローは全てのプログラムを受講する必要はなく、自らが設定する世界視力コンピテンシーの達成目標及び自己分析・評価を通じて、一連のプログラムの中から戦略的に受講選択できる「準テラーメイド式」を採用しています。計画的にプログラムを受講・選択するにあたり、L-INSIGHTフェローは、受講支援メンターに相談することができます。



6 産業界の実践力の活用

産業界の視座からの助言を直接受けることを重視しています。プログラムを通じ、L-INSIGHTフェロー及び企業研究者による共同研究を立案する機会を多数提供し、産学の若手研究者間のネットワークの構築及び拡大を図ります。



3 メンターによる支援的評価

L-INSIGHTフェロー自らが達成目標を設定し、必要なマインドセット・スキルセットを意識しながら、自己評価を行うことを支援するために、中立的な立場からの助言者として京都大学名誉教授メンターを配置します。



7 経済的支援による自律的参加

基幹プログラム群及び実践プログラム群の各種プログラムを積極的に受講するL-INSIGHTフェローには、「経済的支援による自律的参加」を促すために、「活動促進支援」を設けています。京都市以外において開催されるL-INSIGHT主催のプログラム受講に必要な旅費、及びプログラムを通じて得た研究成果を発信するための支援を行います。

大阪大学
神戸大学

大学連携機関

京阪神三大学の連携による一部プログラムの開催、汎用化したプログラムの普及

三井化学株式会社
キリンホールディングス株式会社
IRIS 科学・技術経営研究所
(一社)産学協働イノベーション
人材育成協議会
株式会社 島津製作所

企業等連携機関

合同リポート、研究会、短期派遣を通じた若手研究者と産業界との交流

若手研究者の
プログラムへの参加

京都大学

海外拠点によるバックアップ
(ASEAN拠点、欧州拠点、北米拠点等)
産学連携の知見の活用
(OI機構、京大オリジナル、京都iCAP)

若手研究者と
現地研究者との交流

国際的な環境における一部プログラムの開催

連携教育機関

沖縄科学技術大学院大学
(OIST)
メルボルン大学

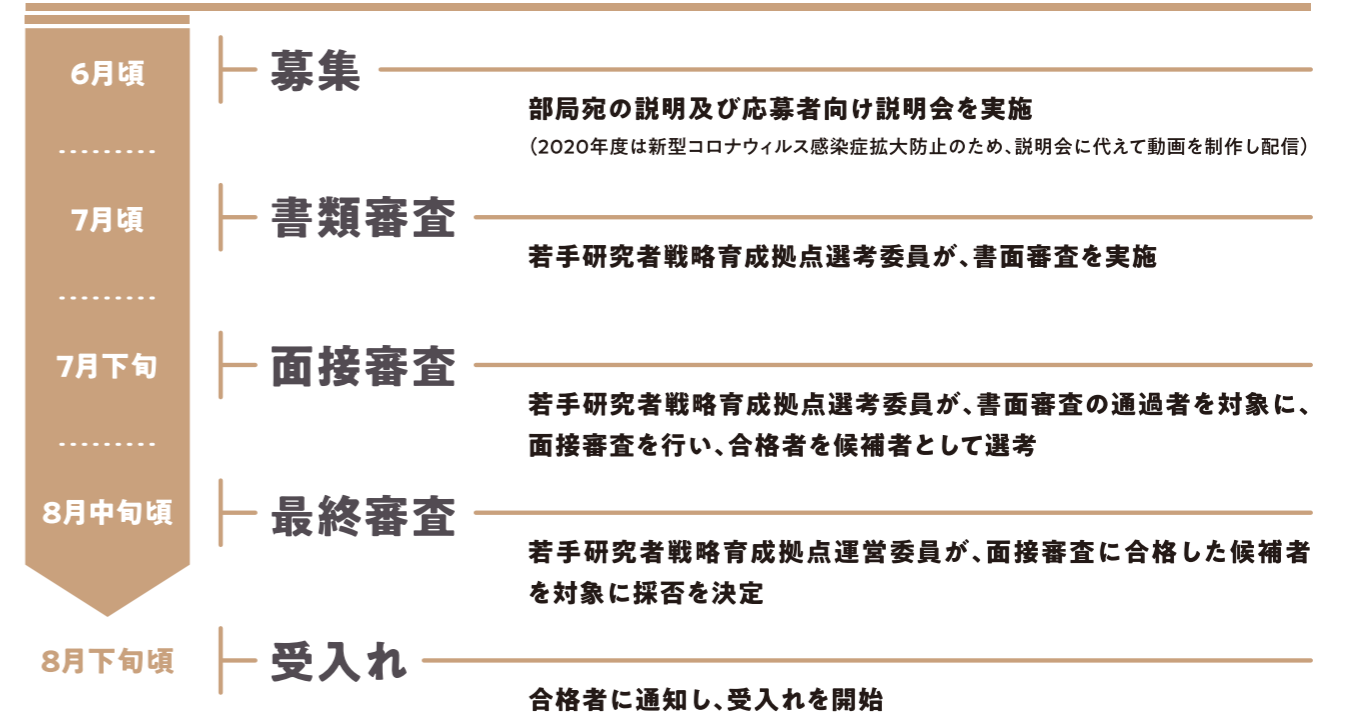
京都大学の国際連携の蓄積を活用した共同研究を視野に入れた交流を通じ、世界水準の研究を行う契機等を提供

海外連携機関

On-site Laboratory
HeKKSaGOn
(日独6大学アライアンス)加盟大学
戦略的パートナーシップ協定締結大学
ほか大学・研究機関

L-INSIGHT フェロー 募集・受入れプロセス

学術的な観点や次代を牽引する研究者としての
素養・資質等の人物評価を含む総合的な観点から、
公正・公平な審査をL-INSIGHTの選考委員会が実施します。



上記の受入れ日程は年度により変更の可能性があります。詳しくはL-INSIGHTホームページ(<https://www.l-insight.kyoto-u.ac.jp/>)をご確認ください。

運営体制

受講支援メンター

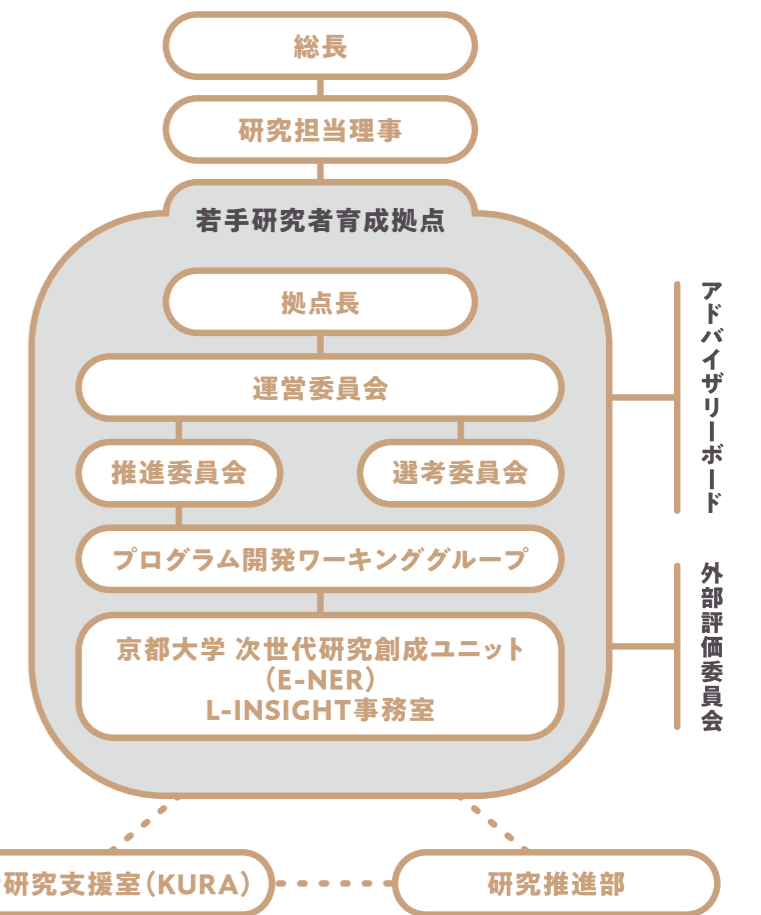
世界視力コンピテンシーの達成目標に応じて、各フェローが受講するプログラムを戦略的に選択するために、次世代研究創成ユニット特定教員が受講支援メンターとして支援します。

名誉教授メンター

L-INSIGHT受講に伴いフェロー自身が設定した世界視力コンピテンシーの達成度について、フェローと名誉教授メンターが対話し(半年に1度程度)、フェローはその結果を自己評価、又は目標の再設定に活用することができます。

アドバイザーボード

L-INSIGHTの運営について定期的に助言を行う国内外の有識者から成る組織です。L-INSIGHTフェローには国際メンバーと2~3年に1度、国内メンバーと1年に1度程度、対面し交流する機会を設ける予定です。



L-INSIGHT FELLOWS

L-INSIGHT フェロー



第1期

新井康之
岡村亮輔
五味良太
田中智大
沼田圭司

磯部昌憲
桂 有加子
高橋雄介
中野元太
藤井俊博

第2期

井上浩輔
白石晃將
藤井悠里
山本暁久

岩上哲史
平塚徹
本郷峻

第3期

飯間麻美
宋和慶盛
山田真太郎

江口佳那
藤本花音
吉光奈奈

(五十音順)

L-INSIGHTフェロー 第1期(2020)

新井康之

医学部附属病院
検査部・細胞療法センター
助教



京都大学医学部医学科(2006年)卒。医学研究所北野病院、倉敷中央病院での臨床研修を経て、京都大学大学院医学研究科博士課程修了(血液・腫瘍内科学)。以降、3年間米国国立衛生研究所にて博士研究員として、免疫学研究に従事。帰国後、京都大学医学部附属病院血液内科医員を経て、2018年より輸血細胞治療部(現:検査部・細胞療法センター)助教。造血幹細胞移植をはじめとした細胞療法の開発と応用に取り組む。

桂 有加子

霊長類研究所
ゲノム細胞研究部門
助教



総合研究大学院大学先導科学研究科生命共生体進化学専攻5年一貫制博士過程修了、哺乳類の性染色体進化に関する研究で学位論文を発表。日本学術振興会海外特別研究員としてカリフォルニア大学バークレー校、ペンシルベニア州立大学等で博士研究員として勤務。日本大学医学部で助教として勤務後、2019年より現職。進化遺伝学の分野で系統進化やゲノム解析等を専門とする。

磯部昌憲

医学部附属病院
精神科神経科
助教



京都大学医学部医学科卒業。臨床研修修了後、精神科医として児童思春期専門外来を担当。京都大学博士(医学)。学位取得後、特任研究員としてケンブリッジ大学行動臨床神経科学研究所・精神科で注意欠如多動症や嗜癮疾患等の臨床研究を行う。帰国後、京都大学医学部附属病院精神科神経科特定病院助教に着任し「児童思春期こころの相談センター」の立ち上げに携わるとともに児童思春期および摂食障害の臨床・研究に従事。2019年11月より現職。

岡村亮輔

医学部附属病院
消化管外科
助教



2006年奈良県立医科大学医学部卒業後、同附属病院にて初期臨床研修を修了。2008-2013年に消化器外科医として兵庫県立尼崎病院(現: 尼崎総合医療センター)で勤務後、京都大学大学院医学研究科消化管外科学専攻にて臨床研究について学ぶ。2017年から3年間、University of California San Diego Moores Cancer CenterでMolecular profilingを用いた個別化癌治療についての研究を行う。2020年4月から現職。臨床外科医として働きながら、癌治療の研究に取り組む。京都大学医学博士(2018年)。

田中智大

大学院工学研究科
社会基盤工学専攻
助教



京都大学大学院工学研究科社会基盤工学専攻修士課程修了、博士課程修了。2016年4月より日本学術振興会特別研究員DC2、同年10月より同振興会特別研究員PDを経て2017年3月より現職。研究テーマは豪雨時の氾濫現象の数値解析とその被災リスクの定量化をはじめ、最近では気候変動による日本全国の洪水リスクへの影響評価や経済モデルによる気候変動適応策の評価にも取り組む。2019年 水文・水資源学会論文賞、2020年 土木学会論文賞、水工学論文奨励賞 他受賞。

中野元太

防災研究所
巨大災害研究センター
助教



京都大学大学院情報学研究科社会情報学専攻博士後期課程修了(博士:情報学)。防災教育・地域防災のアクションリサーチを専門とし、主に高知県、ネパール、メキシコで研究。青年海外協力隊および国際協力機構JICA企画調査員としてエルサルバドルにおける地域防災・防災対策に約3年従事。2019年12月より現職、地域住民ら主体の防災実践を目指して、地域・学校・行政と連携した実践共同研究を行う。

五味良太

大学院工学研究科
都市環境工学専攻
助教



2016年9月、京都大学大学院工学研究科都市環境工学専攻博士課程修了。以降、同専攻環境システム工学講座環境リスク工学分野に助教として勤務。2018年8月-12月にUniversity of Melbourne、2019年1月-8月にMonash Universityに留学し、河川水中に存在する細菌の一種であるKlebsiella pneumoniaeのゲノム解析に関する研究を行う。現在の研究テーマは、環境水中の薬剤耐性腸内細菌科細菌のゲノム解析。

高橋雄介

大学院教育学研究科
教育認知心理学講座
准教授



東京大学大学院総合文化研究科広域科学専攻博士課程修了。博士(学術)。京都大学高等教育研究開発推進センター、京都大学デザイン学大学院連携プログラム、京都大学白眉センターにおける任期付きの勤務を経て、2020年4月より現職。専門は、教育心理学・発達心理学・行動遺伝学。人間の心理学的な特徴や精神病理的な症状の個人差について、その発達の諸相や発生機序について明らかにしたうえで、それらの遺伝と環境の輻輳について示唆を得るための研究を行っている。

沼田圭司

大学院工学研究科
材料化学専攻
教授



東京工業大学工学部高分子工学科卒業(2003年)、同大学院総合理工学研究科にて博士(工学)を取得(2007年)。米国Tufts大学JSPS海外特別研究員(2008年)、理化学研究所チームリーダー(2012年)、内閣府ImPACTプロジェクトリーダー(2014年)、JST ERATO研究総括(2016年)、2020年より現職。高分子の生合成と分解を利用した、高分子の構造化と機能化の研究を進める。主な受賞は、米国化学会Macro Letters/Biomacromolecules/Macromolecules Young Investigator Award(2020年)、文部科学大臣表彰若手科学者賞(2018年)等。

藤井俊博*

白眉センター/
特定助教



大阪市立大学大学院理学研究科後期博士課程修了、博士(理学)取得。宇宙物理学者。白眉研究者。学位取得後、シカゴ大学カブリ宇宙物理学研究所、東京大学宇宙線研究所を経て2018年より現職。専門は極高エネルギー宇宙線観測。南北半球で極高エネルギー宇宙線への最高感度を誇る、テレスコープアレイ実験とピエールオージェ観測所の共同研究者であり、次世代計画であるFAST実験では研究代表者として新型宇宙線望遠鏡の開発を主導している。これまでに日本学術振興会特別研究員DC2、PD、海外特別研究員に採用され、日本物理学会若手奨励賞(2018年)、宇宙線研究者会議宇宙線物理学奨励賞(2018年)受賞。

*他機関への所属先変更によりアラムナイ(2022年3月~)

井上浩輔

大学院医学研究科
社会健康医学系専攻
国際保健学講座社会疫学
助教



2013年東大医学部卒。国立国際医療研究センター、横浜労災病院の勤務を経て、21年UCLA公衆衛生大学院(疫学)博士課程修了。同年より大学院医学系研究科 社会疫学分野 助教。医学部付属病院 糖尿病・内分泌・栄養内科で診療にも従事。伊藤病院(甲状腺疾患専門病院)疫学顧問。2020年NIH/NIDDKF99/K00 Award受賞。2017-2021筆頭論文30本。主な研究テーマは、因果推論の手法を用いた、臨床医学における因果メカニズムの解明と、社会背景因子によるその異質性評価。

岩上哲史

大学院農学研究科
農学専攻耕地生態科学講座
助教



2013年に京都大学大学院農学研究科農学専攻修了。博士(農学)。2014年1月より農薬会社 BayerCropScience(@フランクフルト)でポストドク、2015年4月より筑波大学生命環境系助教として、雑草の除草剤抵抗性機構の解明に取り組む。2016年10月から現職。雑草の適応進化に興味を持ち、分子生物学、生化学などのアプローチで研究を行っている。日本雑草学会奨励賞受賞(2015年)。

藤井悠里

大学院人間・環境学研究科
相関環境学専攻
自然環境動態論講座
助教



名古屋大学理学研究科素粒子宇宙物理学専攻博士課程修了。東工大地球生命研究所(ELSI)、コペンハーゲン大学Niels Bohr Instituteの研究者を経て、名古屋大学高等研究院にてS-YLC特任助教として研究に従事。2021年1月より現職。惑星や衛星の形成過程の解明を目指し、その形成環境についての研究を行っている。East Asia Young Astronomers Meeting 2011 口頭発表賞、名古屋大学理学研究科顕彰(2011)受賞。

本郷峻

アフリカ地域
研究資料センター
特定研究員



京都大学大学院理学研究科生物科学専攻博士後期課程修了。博士(理学)。同霊長類研究所研究員、国際協力機構(JICA)長期専門家などを経て、現在は京都大学アフリカ地域研究資料センター特定研究員。コンゴ盆地熱帯雨林に暮らす人々の重要な食糧・収入源である野生哺乳類の持続的管理のため、自動撮影カメラを用いた科学的な個体数推定と地域住民の実践的な在来知とを統合した研究に取り組んでいる。

白石晃将

大学院農学研究科
応用生命科学専攻
応用微生物学講座
助教



2012年京都大学農学部卒業。2017年同大学院農学研究科博士課程及び思修館プログラム修了。在学中、日本学術振興会特別研究員他。2017年外務省、2018年国連食糧農業機関を経て、2021年より現職。タンパク質代謝・オルガネラの分子細胞生物学と異種遺伝子発現、資源・環境問題解決に向けた応用微生物学研究に従事。2016年国際酵母学会最優秀ポスター発表賞他受賞。2020年に京都大学応援大使の任を拝命。

平塚徹*

大学院 生命科学研究科
高次生命科学
システム生物学専攻
特定助教



大阪大学医学部医学科(2011年)卒。2015年京都大学医学研究科博士課程修了。マウス皮膚細胞にて細胞内シグナルが伝搬する現象(SPREAD)を報告。同年より英国キングスカレッジロンドンにてヒト皮膚幹細胞の研究に従事。2021年4月より現職。オルガノイドおよび生体組織のライブイメージングを用い、ヒト膀胱癌の予防および新規治療法の確立のための研究に取り組んでいる。2011年大阪大学山村賞、優秀学生顕彰優秀賞受賞。

*他機関への所属先変更により アラムナイ(2022年1月~)

山本暁久

高等研究院
医学物理・
医工計測グローバル拠点
特定助教



2011年に京都大学大学院理学研究科修士課程修了。同博士課程中途退学後、2015年に博士号取得(理学・論文)。2013年より京都大学物質-細胞統合システム拠点、2017年より京都大学大学院医学研究科にて研究員を務めた後、2018年より現職。専門はソフトマター物理・医学物理。実空間・逆空間の手法によるやわらかい界面の構造・物性測定や、臨床医学の課題に対し細胞の運動や集団秩序をはじめとした物理学的視点から研究を行っている。



飯間麻美

医学部附属病院
先端医療研究開発機構・
放射線診断科
助教



京都大学医学部医学科卒業。臨床研修を経て、京都大学大学院在学中にフランスニューロスピン(超高磁場MRI研究所)に留学の後、医学博士の学位を取得。京都大学白眉センター、京都大学医学部附属病院放射線診断科での勤務の後、2019年4月より現職。非侵襲的な拡散強調MRIを始めとする様々なイメージング技術を用いて画像の情報を新たに抽出して活用することにより、身体に負担の少ない安全で新たながんの画像診断法を開発している。

江口佳那

大学院医学研究科
リアルワールドデータ
研究開発講座
特定助教



2020年京都大学大学院情報学研究科博士後期課程修了。博士(情報学)。2012年に同修士課程を修了後、日本電信電話株式会社で応用研究・開発業務などに約10年間従事し、2022年7月より現職。医療・ヘルスケア分野を中心に、ウェアラブルセンシングシステム、生体信号・データ解析に関する研究に取り組んでいる。第34回電気通信普及財団賞 テレコムシステム技術学生賞 佳作、その他受賞。

山田真太郎

大学院医学研究科
放射線遺伝学教室
助教



奈良県出身。2008年東京大学理学部生物化学科卒業。13年同大学院理学系研究科生物化学専攻修了。博士号取得。同大学院総合文化研究科広域科学専攻博士研究員を経て、同年、米国ニューヨーク・メモリアルスローンケタリングがんセンター博士研究員。18-20年京都大学大学院医学研究科とクロスアポイント。18年より現職。有性生殖やがん、老化、遺伝子工学の理解につながるDNAの組換えや修復の分子機構を研究している。

吉光奈奈

大学院工学研究科
社会基盤工学専攻
助教



立命館大学大学院理工学研究科総合理工学専攻修了。博士(理学)。東京大学地震研究所、スタンフォード大学でポストドク研究員として勤務の後、東京大学地震研究所特任助教を経て、2021年より現職。実験室における計測や誘発地震の解析を通して、地震発生過程の研究に取り組んでいる。

宋和慶盛

大学院農学研究科
応用生命科学専攻
助教



2012年京都大学農学部卒業。2017年同大学院農学研究科博士課程修了。2015年日本学術振興会特別研究員。2017年三井化学アグロ(株)、2019年(株)村田製作所を経て、2021年より現職。生体がつもつ基幹機能(呼吸・代謝・光合成)の本質を電気化学的に理解し、生体模倣技術による社会還元を目指す。特に、直接電子移動型酵素による第三世代型バイオセンサの社会実装とCO2資源化。2022年Chem.Comm.誌Outside FrontCover採択。

藤本花音

大学院文学研究科
助教



東京大学大学院総合文化研究科広域科学専攻博士課程修了。博士(学術)。京都大学高等教育研究開発推進センター、京都大学デザイン学大学院連携プログラム、京都大学白眉センターにおける任期付きの勤務を経て、2020年4月より現職。専門は、教育心理学・発達心理学・行動遺伝学。人間の心理学的な特徴や精神病理的な症状の個人差について、その発達の諸相や発生機序について明らかにしたうえで、それらの遺伝と環境の輻輳について示唆を得るための研究を行っている。



L-INSIGHT

世界視力を備えた
次世代トップ研究者育成プログラム